【小】

ここに示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも例示の通りである必要はありません。

【体育科学習指導案様式】　　単元の内容や時間のまとまりを見通して、授業をデザインします。

第○学年○組　体育科（運動領域）学習指導案

指導者　○○　○○

１　単元名

体つくり運動は

（知識及び運動）

２　単元の目標

(1)　～することができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識及び技能）

(2)　～することができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　（思考力、判断力、表現力等）

(3)　～することができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力、人間性等）

３　単元について

(1)教材観･･･育成する資質や能力を明確に示す。

(2)児童の実態･･･単元に関わる実態調査の結果等を表やグラフで示すとよい。

(3)指導観･･･児童の実態を踏まえ、単元の目標を達成するための具体的な手立てを示す。

(1) 教材観

(2) 児童の実態

(3) 指導観

４　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①  ②  ③  ～している。（知識）  ～できる。（技能） | ①  ～している。 | ①  ～にしようとしている。  ～している。（健康・安全） |

単元の評価規準は、「小学習指導要領（平成29年告示）解説体育編」（平成29年７月）文部科学省、及び「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料小学校体育」（令和２年３月） 文部科学省国立教育政策研究所　を参考にして作成する。

５　指導と評価の計画（７時間扱い）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時 | | １ | ２ | ３ | ４ | ５（本時） | ６ | ７ | |
| 学  習  の  流  れ | ０  10  20  30  40  45 | オリエンテーション  ・小型ハードル走について  ・学習の進め方の  確認  ・チーム編成  役割分担  ・試しの運動 | ○健康観察　○本時のねらいと内容の確認　○準備運動　○感覚つくりの運動 | | | | | | |
| リズムよく小型ハードルを  走り越えるためのポイントを  見付ける。  ○いろいろなインターバルや形の　小型ハードル  ・ゴムハードル  ・段ボールハードル  ○小型ハードル折り返しリレー | | リズムよく小型ハードルを  走り越える。  ○40ｍの小型ハードル走  （一定の間隔に並べた小型  ハードルを一定のリズムで）  ○小型ハードル折り返しリレー | | 自分に合ったコースを選んで  競走する。 | | |
| ○整理運動　○学習のまとめと本時の振り返り　○次時の確認　○健康観察 | | | | | | | |
| 評価の重点 | 知 | ①  記述 |  | ②  観察 |  |  | ③  観察・記述 | |  |
| 思 |  | ①  観察 |  | ②  記述 | ③  観察 |  | |  |
| 態 | ①  観察 |  | ・１時間に評価する観点は、１～２つとし、無理のない評価計画を立てる。  　・２つの観点を評価する場合は、共に「観察」による評価を組み合わせない。  　・記録に残す評価を実施しない時間を設定することもできる。（他の時間に評価規準の内容が全て計画されていること。）  ・「記述」は、学習カードやICTを利用した見取りを含む。  　・「観察」は、ICTを利用した見取りを含む。 | ②  観察 |  |  | | ③  観察 |

６　本時の展開（５／７時間）

「４　単元の評価規準」の文言との整合性を図る。「５　指導と評価の計画」の評価の重点との整合性を図る。

(1) 本時の目標

　　○ ～することができるようにする。　　　　　　　　　　　　（思考力、判断力、表現力等）

(2) 準備・資料

(3) 展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 教師指導・支援（◆評価規準と方法） |
| 導　　入  ○  分 | １  本時のめあてについて、児童に提示する言葉で記入する。  例：ボールをゴール前に運ぶためには、どのようなパスを出したらよいだろうか。  ２  ３  個別の対応が必要な生徒への指導の手立てや対応策を示す。  個別の対応が必要な児童への指導の手立てや対応策を示す。  ４  ５ | ・    本時の目標、本時のめあて及び評価規準が一致するようにする。  ただし、技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ、評価をするまで一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして行う場合も考えられる。その場合は、必ずしも一致するものではないことに留意する。  本時の目標，本時の学習課題及び評価規準が合致するようにする。  ・～の児童に対しては、～することで、～ができるようにする。  ※児童のつまずきを予想し、具体的な指導の手立て  や対応策を記述する。  ◆　～している。  （思考・判断・表現）  【観察】  （評価の観点）、【評価方法】を示す。 |
| 展  開  ○  分 |
| まとめ  ○  分 |